平成２７年度　各種調査結果等を活用した学力向上の取組事例

事務所名	宮古	学校名	山田町立豊間根中学校	ＴＥＬ	0193－86－2411

校内研究との連動（ゴールの明確化　学び合い）　生徒の質的変容　　諦めず頑張り続けられる生徒の育成

【今年度の目標】

１．岩手県学習定着度状況調査等各種調査において、どの教科についても岩手県の平均値および全国の平均値と同等レベル以上を目指す。

２．各種調査において、無答率を今年度より減少させ０に近づける。

３．岩手県学習定着度状況調査の生徒質問紙「授業の内容がよく分かる」「自分にはよいところがあるか」の肯定的回答を、県の平均値と同等レベル以上を目指す。

【組織的な対応を図る上で工夫した点】

・各教科等において研究主題である「確かな学力の定着を図る指導のあり方～ゴールの明確化と各教科における学び合いの充実を通して～」の推進、実践を図る。特に「ゴールの明確化」については学習課題の生徒との共有を大切に進める。また、グループ学習等を取り入れた「学び合い」を通して、思考力と表現力の向上を図る。

・授業だけでなく、授業外の時間でも帯活動や掲示等を通じて、読む力・読みとる力・表現力を高めるための工夫を行う。

・生徒に自信や誇りを持たせるような活動を行うための行事等の精選や工夫を行う。

【具体的な取組】

１．昨年度の調査結果に見える課題点

(1) 県学調では国語の「話すこと・聞くこと」「読むこと」、数学の「数学的な考え方」の正答率が 1 学年では県平均を大きく下回り、2 学年でも県平均を下回っており、思考力、表現力に課題があることがわかる。

(2) 県学調における無答率は 5%程度だが、記述問題のみで見ると約 10%である。説明をする問題では 20%を超えるものもあった。

(3) 授業者は授業のはじめに学習課題を設定し、最後に振り返りを行っていたつもりだったが、質問紙調査からは肯定的な数値が県の値を下回り、生徒との学習課題と振り返りの認識が共有されていない。

(4)「自分にはよいところがある」の肯定的な回答が県平均を下回っている。

(5)「授業の内容がよくわかる」の肯定的回答が、学年が進むと低くなっている。

２．改善に向けた今年度の取組

(1) 校内研究との連動　…　目標１・２・３

ア　学習課題の共有

授業者側は学習課題を設定し、生徒とともに確認していたつもりだったが、生徒の学習課題の認識は授業者と一致しないことが質問紙調査から明らかになった。そこで、今年度は授業者と生徒の学習課題の共有を重点として、授業改善に取り組んだ。生徒と授業者が課題を共有することで、生徒は考える視点を明確に持って授業を受けることができ、また、授業者も授業の中心となる課題からぶれない授業作りができている。さらに、学習課題を明確に意識させることは単位時間の中で考える視点を持ち続けることにもつながり、粘り強く課題解決に取り組む姿勢づくりにも役立ち、ひいては調査時の無答率の低下にもつながると考える。

イ　学び合い・表現する場の工夫

学び合う場面を授業内に計画的に設定し、他者の意見から学ぶことや根拠をもとに課題解決方法を考えることにも取り組ませることができた。答えを出して終わりにならないような授業展開を目指し、生徒はなぜそのような考えになったのかを考えるようになった。

学び合いの場面では「書く」「発表する」「互いの考えから思考を深める」「関連づけて考える」「資料を活用して考えをまとめる」等の視点で学習活動の工夫を行った。

グラフや地図帳をもとに課題解決に向けて話し合っている様子

ウ　振り返りの工夫

学習課題を授業者と生徒が共有し、課題解決に向けて取り組んだ過程や学習した内容を振り返ることが毎時間定着してきている。その時間の自分の学習について整理できる点で振り返りは思考力・表現力を育む上でも重要であり、自分自身の学習のまとめを書いたり、発表したりすることで、知識や理解、技能についても確実に習得させることができると考える。

生徒の振り返りの例

数学（１年）　課　　題　グラフを読み取って、問題を考えてみよう。

振り返り　グラフで答えを求めるのは案外簡単だったし、式ではあまりわからない差もグラフだとよくわかる。

保健体育（２年）課　　題　倒立技からなめらかに起き上がるこつをみつけよう。

振り返り　頭を両腕で挟むようにして、伸びるようにしてやればやりやすいし、11 時 25 分を意識したい。　※11 時 25 分は体の姿勢の作り方の説明

国語（３年）課　　題　別れの場面を読み取ろう。

振り返り　紺碧の空のところが出てきて、何を感じているのか、次の授業で深く理解していきたいです。

(2)　自己肯定感を高めるための行事の精選等　…　目標１・３

ア　文化祭の見直し

「地域に豊間根中学校の元気を発信する」という視点で、今年度、文化祭の内容を見直した。全校で「地域への感謝、地域への元気の発信」という１つの目標に向かって取り組むことで、一体感、達成感のある行事にすることができた。一体感、達成感が自己有用感を高めることにつながるとともに、自分や仲間の努力に対して、相互に前向きに良さを認めることができるようになってきている。

イ　全校生徒会・学年生徒会による学習取組

「学力向上」について、生徒会活動として生徒目線での取組を行うことで、教師が計画表をチェックするだけのときよりも、「みんなで頑張ろう」という意識の高まりが見られた。ここでも一体感、達成感を自己有用感、自己肯定感につなげることができたと考える。

全校生徒会の学習についての取組

（学習時間合計 2500 時間を目指した「学習チャレンジ 2500in 豊中」取組）

(3)　廊下掲示の工夫　…　目標１・２

ア　家庭学習ノートの掲示

曜日ごとに教科を割り振り、教科担任が家庭学習ノートの点検と指導をしている。また、その中から他の生徒の模範となるものを選んで掲示したり、授業で紹介したりしている。

家庭学習模範ノート掲示

イ　朝読書資料・新聞の掲示

読む力、読み取るための力の向上のために、日常から長文に触れたり、様々なジャンルの文章に触れる機会として毎朝 10 分間の朝読書を実施している。朝読書の時間は自由読書だけではなく、読ませたい文章や考えさせたい内容の資料を配付して、全員が同じ文章を読む期間も設定している。また、新聞を掲示することで、社会情勢に目を向けさせ、社会の中での出来事に対して自分の考えを持つ機会としている。

朝読書資料の掲示

新聞掲示

(4)　教職員全員体制での取り組み　…　目標１・２・３

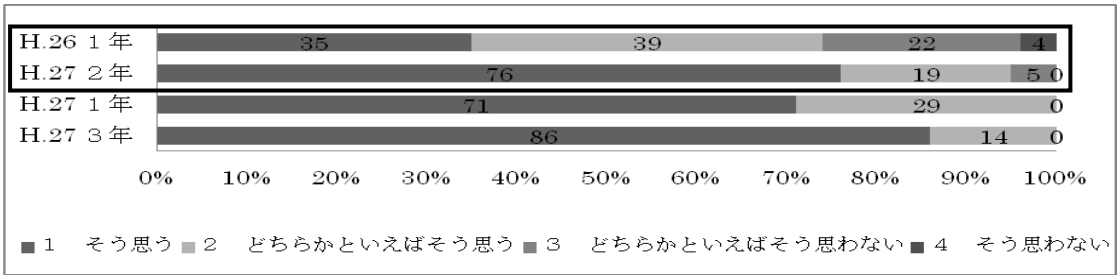
生徒の現状について教職員の共通理解を図り、教職員が協働して生徒の学習指導や支援にあたることができるように、以下のような取組を行っている。

ア　Ｑ－Ｕの実施と分析、研究会での共通理解…4 月、11 月
イ　定着度調査の教科・質問紙の分析、研究会での共通理解…11 月～1 月
ウ　職員会議での学年の現状把握…毎月
エ　学年主任会議での学年の現状把握…毎週
オ　専門教科以外の職員を含めた指導案検討(指導案検討委員会)の実施
カ　「他教科の実践から学ぼう週間」(授業の自由参観)の実施

【成果】

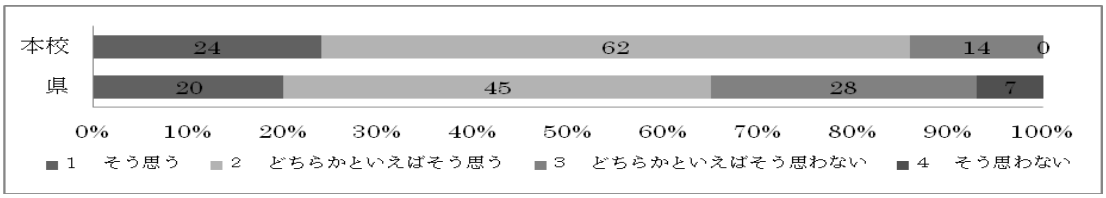
○　研究主題を教職員全員で意識することで、授業のはじめに示す学習課題を生徒と共有して授業を進めることができた。〈下表参照〉

◆H.26・H.27　県学調質問紙　「授業のはじめに目標（めあて・ねらい)」を確認していると思いますか」

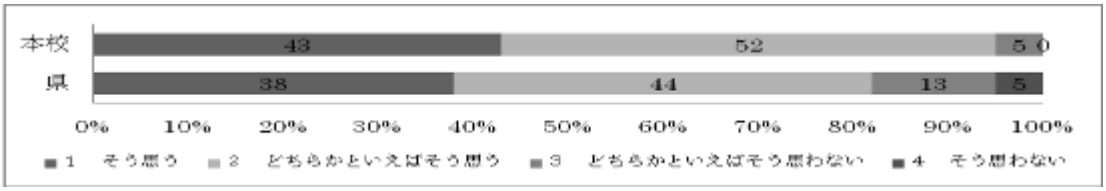


○　授業内に学び合いや発表の場を工夫して設定することにより、生徒の思考することや表現することへの苦手意識が低くなっていることが、各教科の観点・領域別の正答率や無答率の変化から読み取ることができた。〈下表参照〉

◆H.27　県学調質問紙（2 年）　「普段の授業で、いろいろな資料を使って発表する活動を行っていると思いますか。」



◆H.27　県学調質問紙（2 年）　「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」



◆県学調における無答率の変容　　数値は全問題に対する無答率、（　）は記述問題に対する無答率

	国語	社会	数学	理科	英語
H.26　2年	5.9（11.3）	4.2（16.8）	7.0（10.4）	4.1（9.5）	6.4（12.7）
H.27　2年	2.4（4.3）	1.9（7.1）	6.3（10.6）	2.1（3.6）	4.8（9.2）

○　県学調の正答率は英語以外は県を下回る結果であったが、国語では昨年度よりも「話すこと・聞くこと」「読むこと」で 5 ポイント以上の向上が見られ、「書くこと」は県平均を上回っている。数学では「見方・考え方」で、対県比は 5 ポイントの向上が見られ、県の平均を上回った。〈下表参照〉

◆県学調における観点・領域別の正答率の変化

国　語	H.26　1年		H.27　2年		昨年度からの伸び
観点・領域	本校	県平均との差	本校	県平均との差	(県比)
話すこと・聞くこと	51.1%	−7.9%	66.1%	−1.2%	**6.7%**
書くこと	58.7%	20.5%	69.6%	**8.1%**	−12.4%
読むこと	36.7%	−8.8%	49.5%	−3.1%	**5.7%**
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	61.7%	−5.4%	69.9%	−5.8%	−0.4%

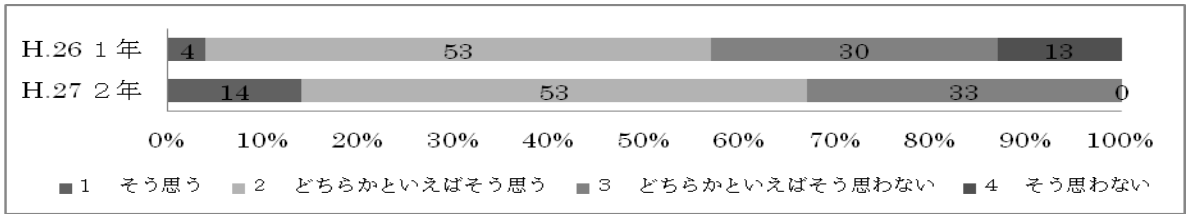
数　学	H.26　1年		H.27　2年		昨年度からの伸び
観点・領域	本校	県平均との差	本校	県平均との差	(県比)
数学的な考え方	42.2%	−6.3%	51.3%	1.3%	**7.6%**
数量や図形についての技能	67.4%	−1.5%	54.3%	−3.9%	−2.4%
数量、図形などについての知識・理解	59.1%	−3.8%	42.3%	−3.8%	0.0%

○　「振り返り」については、学習課題設定と関連させて、授業の終末で、どのような振り返りを生徒に書かせたいかを具体的にイメージしながら授業をすることができた。

一方で、県学調では「知識・理解」の領域に向上が見られない結果が出ている。今後は授業での振り返りの時間を確実に確保し、自分の理解や技能の高まりを確認させることによる伸びを期待したい。また、授業と連動した家庭学習のあり方についても検討し、学習内容のさらなる定着を図る取組を継続していく必要がある。

○　「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対する肯定的な回答の割合が昨年度対県比−9 ポイントから今年度−1 ポイントとなり、県と同等レベルまで改善した。

◆H.26・H.27　県学調質問紙　「自分には良いところがあると思いますか」



○　教師側の意識が統一され、「チーム豊中」を合言葉に全員で無答率減に取り組むことができた。

○　昨年度の冬季休業中に行った定着度調査分析検討会の話し合いが授業改善やその他の取組に大いに生かされた。今年度も教科の分析、質問紙の分析（全学年、経年比較、学年比較）を行い、3 学期や来年度の指導に生かしていきたい。